



CSS テクニク

Blog デザインを **スマートフォン** にかっとなそう!

第8回 オーバーフローを使いこなそう

SEOやアクセシビリティへの考慮から、最近ではフレームを使う機会がどんどん減り、ページに別のHTMLを埋め込む場合にはiframeがよく使われるようになってきました。iframeは、長くなりがち側バーをコンパクトにまとめるときに活躍しているのではないのでしょうか。しかし、iframeを使うと結局コンテンツを別々のHTMLファイルで管理することになります。そこで、CSSのoverflowプロパティを使って疑似的にフレームを作る手法を使うと、ページの情報を一括して管理できます。今回は、その疑似フレームを作るテクニックも含めて、マスターすれば表現の自由度がさらに高まるoverflowプロパティの使いこなすテクニックを3つ紹介します。

by スタイルシート・スタイルブック

<http://www.stylesheet-stylebook.com/>

主宰者の執筆したCSSの書籍『スタイルシート・スタイルブック』翔泳社刊の発売と同時にオープンした、CSSをみんなで楽しく学べるコミュニティサイト。CSSのテクニックだけでなく、CSSにまつわる最新情報も随時更新しています。また、情報交換場にもたくさんのCSS関連のサイトのリンク集が用意されているので、ぜひそちらもチェックしてみてください。



今月のイケてるCSSデザインサイト

カッコいいデザインをたくさん見てセンスや技を学ぶのが、デザインカアップの第一歩!

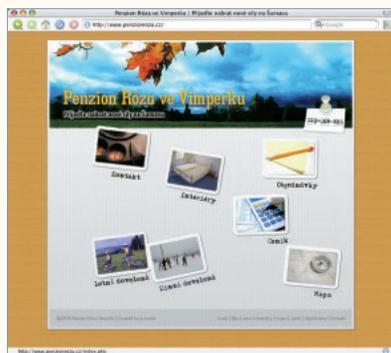
1

自由だけど構造的

Penzion Roza ve Vimperku

<http://www.penzionroza.cz/>

チェコにある寄宿舎のサイト。通常のレイアウトスタイルにとらわれていないトップページの自由なボタン配置が目を引きま。一見<div>を使ったように見えるメニューもを使って構造的なマークアップがされています。スタイルシートを外して見たときのシンプルさには、だれもがきつと驚くはず。トップページ以外のページも情報がスッキリまとまっていて、非常に読みやすいサイトになっています。



コルクボードに適当に貼り付けられた写真のようなデザインも、スタイルシートで実現したものです。

2

ソフトもサイトも使いやすく

Quark

<http://www.quark.com/>

DTPソフトの老舗Quarkも、サイトをCSSレイアウトに切り替えて新時代に向かっているようです。ページ上部にある拡張メニューは、アクションはJavaScriptで行われているものの、見た目はすべてCSSで制御されており、情報構造もリストにしてグループ分けが明確にされています。単にCSSレイアウトにただでなく、色や文字の大きさの使い分けが細かく設定されていて、さすが印刷系の企業といったところでしょうか。



DTPソフトのデザインとCSSデザインにはもちろん通じるところがある。さすがQuarkといったところですね。

イケイケデザイン&テクニク募集中

あなたのイケてるブログサイトやCSSテクニクを募集しています。「いいデザインができたかも」と思ったら、ガンガン応募してください。イケてるデザインやテクニクは、このコーナーで紹介し。みんなで参考にし合っておもしろいサイト作りましょう! 応募先: im-ikeike-css@impress.co.jp(スタイルシート・スタイルブックのサイトでも募集しているよ)



画像をクリッピングしたサムネイルを表示する

1

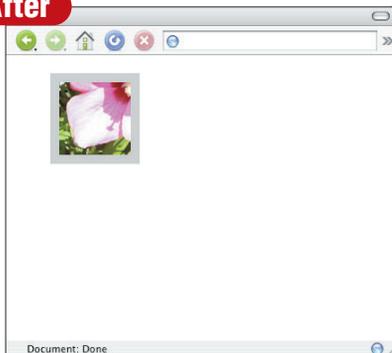
画像には手を加えずに overflow: hidden で一部分だけを表示

by 長谷川恭久



小さなサイズをHTMLで指定して縮小表示するのではなく、画像の一部分だけを表示しています。

After



overflow プロパティは、コンテンツエリアの広さよりも大きなコンテンツを表示させるときに有効です。これはもちろん文字情報だけでなく画像にも有効で、用意されたエリアには大き過ぎる画像をクリッピングして表示させることができます。overflow プロパティは「scroll」と「auto」という値があり、それらを使うとコンテンツエリアにスクロールバーを表示させることができるのですが、「hidden」という値を使えばコンテンツエリア外の情報を見えないようにできます。今回はこの「hidden」を使って、400 × 300ピクセルの画像の一部分、80 × 80ピクセル分だけをクリッピングして表示しています。

HTML

```
<div class="thumbnail">

</div>
```

CSS

```
.thumbnail{
  height: 80px;
  width: 80px;
  overflow: hidden;
  position: relative;
  border: 10px solid #ccc;
}

.thumbnail img{
  position: relative;
  top: -160px;
  left: -110px;
}
```

CSS テクニクのキモ

クリッピングしたい大きさ(今回は80 × 80ピクセル)に指定したコンテンツエリアを用意して、そこに「overflow:hidden」を指定します。こうすることでコンテンツエリア外(つまり80 × 80より外)は非表示になり、画像の一部分だけを表示できます。あとは今回の例のように枠線を付けるなどの装飾を加えれば完成です。

普通に画像をクリッピングすると、指定したサイズだけ、画像の左上部分が表示されますが、今回のように、画像、つまりimg要素のス

タイル指定にtopとleftのプロパティを加えると、画像の中央部分など好きな部分をクリッピング表示できます。ピクセルで制御するだけでなくパーセント指定でも可能です。ただし、上記のようなHTML構造だと、パーセント指定をした場合は、数値の解釈がブラウザによって違うので気をつけた方がいいでしょう。また、クリッピングの位置をtopとleftのプロパティで指定する場合は、コンテンツエリアと画像の両方に「position: relative」を入れる必要があります。

ページデザインに合わせるために画像を同じサイズにそろえる場合などには有効なテクニックですが、注意すべき点があります。見た目がクリッピングされているだけなので、実際にブラウザで読み込まれる画像は大きな写真になっていることです。クリッピングした画像と拡大写真をそれぞれ作る手間が省けて便利なのですが、あまりにたくさんの画像をこのテクニックでサムネイル化してページに並べるのはおすすめしません。

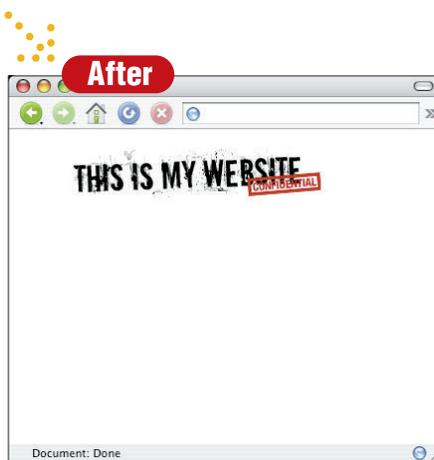


余分なspanタグなしでテキスト付きの画像見出しを作る

2

overflow:hiddenで文字を非表示にする

by 長谷川恭久



HTML上は「This is My Website」という文字要素だけですが、ブラウザでは画像のロゴが表示され、しかも音声ブラウザなどでも正しく読み上げられます。

CSS Zen Garden [URL](http://www.csszengarden.com/) で紹介されている多くのデザインでは、サイトのタイトルに画像を使うのに、HTML上はテキストとしてh1要素を作っておいて、に「display:none」というプロパティを追加してテキストを見えなくして、背景に文字のロゴ画像を貼り付ける方法をとっています。しかし、この方法では、という空箱タグを余分に付け足さなくてはなりません。そこで今回はoverflowを使ってを追加しなくても見出しなどに画像を使う方法を紹介し

[URL http://www.csszengarden.com/](http://www.csszengarden.com/)



HTML

```
<h1 id="sitename">This is My Website</h1>
```

CSS

```
h1#sitename {
  background: #fff url(title.gif) no-repeat 0 0;
  font-size: 100%;
  overflow: hidden;
  padding: 50px 0 0 0;
  height: 0px !important; /* モダンブラウザ用の値 */
  height /**/: 50px; /* IE 5.x用の値 */
}
```

CSSテクニックのキモ

をわざわざ追加しなくてもいいようにして、余計なタグを減らすというのもこのテクニックを使う理由の1つですが、このテクニックを使う重要なポイントは、文字要素を「display:none」に指定するとその部分は音声ブラウザでは読み上げられなくなるけれども、この方法では正しく読み上げられ、SEO的にもh1として扱われる点です。ページのタイトルの情報を画像だけでなくテキストでもきちんと伝えたいときや、アクセシビリティを考慮しながらグラフィカルに見せたい場合

は、今回のテクニックは有効でしょう。

このテクニックも「overflow: hidden」を使います。貼り付けたい画像の高さに合わせて上のpaddingの数値を記述することで、文字をコンテンツエリアの外に押し出して、コンテンツエリアからはみ出した部分(文字)は非表示にする方法です。

ただし、最近のブラウザ(モダンブラウザ)では高さを0pxにしておけばいいのですが、IE 5.5をはじめとした古いブラウザではこの解釈では有効ではありません。そこで、上記

のコードのような「ハック」を使う必要があります。最初のプロパティに対しては「!important」を記述して、次の行にある同じプロパティに対してはプロパティの直後にコメント「/**/」を加えます。わずか2行で完成するハックですが、最後に指定するプロパティ名の後にスペースを最低1つは空ける必要があることと、ハックとして挿入するコメントやコロン(:)の後にスペースを入れてはいけないことなど、細かい注意が必要です。

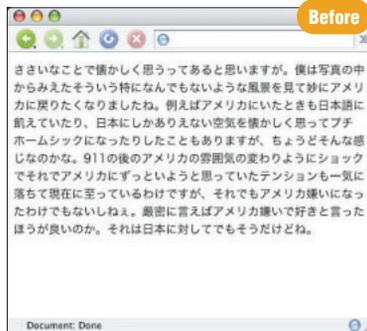


疑似的にフレームのように装飾する

3

overflow:autoで凝ったデザインの部分フレーム

by 長谷川恭久



ただ四角くてスクロールするだけでない、凝ったデザインの疑似フレームにしてみました。



overflow プロパティの最もポピュラーな使われ方は、おそらく「overflow: auto」と「overflow: scroll」を利用した疑似フレームを作る方法でしょう。コンテンツエリア1つで簡単に疑似フレームが完成し、コンテンツをコンパクトにまとめることができる優れたものですが、単にフレーム化をただけでは読み難くなってしまいます。サイトデザインによって装飾のアプローチはさまざまだと思いますが、今回はこの疑似フレームレイアウトを作るコツを紹介しましょう。

HTML

```
<div class="flow-layout">
  <div class="flow-area">
    <p>ささいなことでも懐かしく思うってあると思いますが、僕は写真の中からみえたそういう特になんてでもないような風景を見て妙にアメリカに戻りたくまりましたね。例えばアメリカにいたときも日本語に馴れていた、日本にしかありえない空気を懐かしく思ってプチホームシックになったりしたこともあります、ちょうどそんな感じかな。911の後のアメリカの雰囲気の変化のようにショックでそれでアメリカにずっといようと思っていたテンションも一気に落ちて現在に至っているわけですが、それでもアメリカ懐いになったわけでもないしねえ。厳密に言えばアメリカ懐いで好きと言ったほうが良いのか。それは日本に対してでもそうだけだね。
  </div>
</div>
```

CSS

```
.flow-layout{
  background: transparent url(frame.gif)
  no-repeat 0 0;
  height: 190px;
  width: 230px;
}
```

```
padding: 10px;
}
.flow-area{
  background: #fff url(frame-bg.gif)
  no-repeat 0 0;
  height: 170px;
  width: 210px;
  overflow: auto;
}
.flow-area p{
  margin: 0;
  padding: 10px;
}
```

CSS テクニクのキモ

今回のテクニックでは、丸角のレイアウトを実現するための「flow-layout」と、中の白抜き部分を作る「flow-area」の2つの<div>を使っています。

レイアウトを形成している「flow-layout」は単に画像が貼り付けてあるだけの装飾枠で、このコンテンツのボックス全体の大きさを指定しています。

flow-layoutの中に配置した、実際にコンテンツが入る「flow-area」にoverflow: autoを指定することで、この部分を疑似フレームとして

使っています。flow-layoutの大きさからはみ出すコンテンツがある場合は、枠にスクロールバーが表示されて、枠内でスクロールできるようになるため、画面上にあらかじめ決めた大きさで、どんなサイズのコンテンツでも表示できます。

2つの<div>が記述されているので、今回の例のようにそれぞれのbackgroundプロパティに画像を貼り付けることで、表現の幅も広がるのではないのでしょうか。また、<div>の数を増やせば、スクロールバーの後ろに画像

を貼り付けるなど、応用次第で非常に個性的なフレームを作れます。もちろん、むやみに<div>を増やすのはあまりよくありませんが、表現したいレイアウトがあれば実験でもいいので挑戦してみるといいでしょう。少なくとも今回のように少しでも工夫すれば、疑似フレームもただスクロールバーがあるボックスではなく、おもしろみが出るのは確かです。

なかなか便利な疑似フレームですが、一部のブラウザではマウスにあるスクロールホイールが動作しないので注意しましょう。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp